

歯冠色が歯の美的評価に及ぼす影響

小林蒼依

歯科治療を行う過程では、特に前歯部は単に機能を回復させるだけでなく、天然歯に近似した形態・色調および光透過性を有する補綴処置が求められるようになってきた。そのため修復材料は、臨床応用可能な強度を有しているだけでなく、審美性、生体親和性など種々の要件を満たす必要がある。また、患者、歯科医師、歯科衛生士、歯科技工士が持つ「美しさ」の概念はそれぞれ異なるため、患者の要求する「美しさ」の概念を関係者が共有する必要がある。最終的な補綴処置の決定には、患者さんの好みに依るところが大きいいため、治療計画立案時から患者とのコミュニケーションと連携やインフォームド・コンセントが必要とされる。

本研究では、対象が歯の場合、「美しい」とはどのようなイメージを浮かべるのかを解明しようとした。色の印象で各形容詞の尺度がどのように変化するかを本研究参加者に判断してもらい、参加者の平均的な印象を数値化し、心因的な要因を探った。

対象は、本学歯科衛生士学科1年生10名、2年生10名の計20名、歯科技工士学科2年生20名の計40名を行った。方法として、資料は株式会社松風の人工歯「エンデュラ アンテリオ」の形態HC5、色調A2および、同歯の形態HC5、B2を用いた。視感比色

時に使用する背景は灰色普通紙とした。次にアンケートを行い、アンケート用紙はSD法を用いて作成した。A2とB2を順に提示し、それぞれの色みを見て、「美しさ」という観点から、形容詞群の中から5段階で各印象評価をし、アンケートに答えてもらった。次に、アンケートの結果の解析には、A2とB2の双方とも因子分析を用い、統計解析を行った。

本研究により、他者から歯の「美しさ」を見た時の印象評価としてA2は<女性らしさ>と<暖かさ>、B2は<男性らしさ>と<冷たさ>が示唆された。形容詞別指数平均では被験者にA2は「固い」印象が、B2は「オーソドックスな」、「控えめな」印象があると評価された。このことより、本研究では一般的な色のイメージとは多少の相違点がみられた。また、「美しさ」という基準は主観的なものであり、普遍的なものにはなり得ないといえる。次に患者の要求する「美しさ」の概念を関係者が共有する必要性があり、臨床の現場において、歯科診療補助や歯科保健指導における患者説明などの場面で、患者を含めた関係者一人ひとりが持つ「美しさ」の概念を共有し、患者からのインフォームド・コンセントを得る必要性がある。